

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
おもちゃの魅力 Toys and Young Children		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(特になし)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子	講義棟3階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
「おもちゃ」の持つ魅力に触れるとともに、「こどもにとってのおもちゃとはいったい何なのだろう」を考える。製作にあたっては、身近な素材の魅力に気付き、素材の利用・活用を踏まえて取り組む。				
授業の目標				
①こどもにとってのおもちゃの存在や意味を考え、楽しく製作することができるようにする。 ②知育玩具について考え、その活用の仕方を考慮した提示の仕方ができるようにする。 ③季節の環境装飾を、創作することができるようにする。				
授業の方法				
「おもちゃ」についてそれぞれが意見や考えを持って臨む。個々の製作活動が主となる。知育教材の存在を知り、扱い方を学びながら触れる。季節の環境教材研究にも取り組むことで、「保育環境」としての教材研究も行う。				
学習の成果(学習成果)				
①こどもにとっての「おもちゃ」という存在を解釈し、こどもの発達を意識したおもちゃの取り入れ方や提示の仕方を工夫して活用することができる。 ②素材の特性を活かした製作ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスの説明、授業の取り組み方、準備するもの、素材集め、課題)			
第2回目	「こどもにとってのおもちゃ」についての意見交換(保育ルームにあるおもちゃのそれぞれの特性を考える)			
第3回目	身近な素材を活用した「おもちゃ」を作成する①(教材研究、素材選び)			
第4回目	身近な素材を活用した「おもちゃ」を作成する②(教材研究、素材選び、製作)			
第5回目	身近な素材を活用した「おもちゃ」を作成する③(教材研究、素材選び、製作)			
第6回目	身近な素材を活用した「おもちゃ」を作成する④(季節の環境教材研究、素材選び、製作)			

第7回目	身近な素材を活用した「おもちゃ」を作成する⑤（季節の環境教材研究、素材選び、製作、環境構成）
第8回目	身近な素材を活用した「おもちゃ」を作成する⑥（季節の環境教材研究、素材選び、製作、発表）
第9回目	身近な素材を活用した「おもちゃ」を作成する⑦（季節の環境教材研究、素材選び、製作、発表、評価）
第10回目	発達を意識した「おもちゃ」を作成する①（教材研究、素材選び）
第11回目	発達を意識した「おもちゃ」を作成する②（教材研究、製作、発表と評価）
第12回目	壁面構成を考える①（素材を活かした製作を楽しむ）
第13回目	壁面構成を考える②（素材を活かした製作を楽しむ、環境構成としての展示の仕方を考える）
第14回目	壁面構成を考える②（素材を活かした製作を楽しむ、環境構成としての展示の仕方を考える、発表と評価）
第15回目	各自の作品をふりかえる～「おもちゃの魅力」の意見交換～

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	50%	製作に必要な材料や用具の準備が出来ている。活動後の片付けが適切である。楽しく製作活動に臨んでいる。
レポート		
調査報告書	20%	玩具を調べる。おもちゃの特性や対象年齢、自分の感想が適切に表現できている。
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	30%	発達を意識したおもちゃ、壁面構成を各15点配点。安全で丁寧に仕上げている。
その他		

教科書と参考図書

授業内で必要な書籍を知らせる。  
図書館の活用を望む。

履修上の留意点・ルール

製作に必要な教材、材料、用具は、各自が持参する。  
使用教室の環境整備（片付け、掃除等）に努める。